



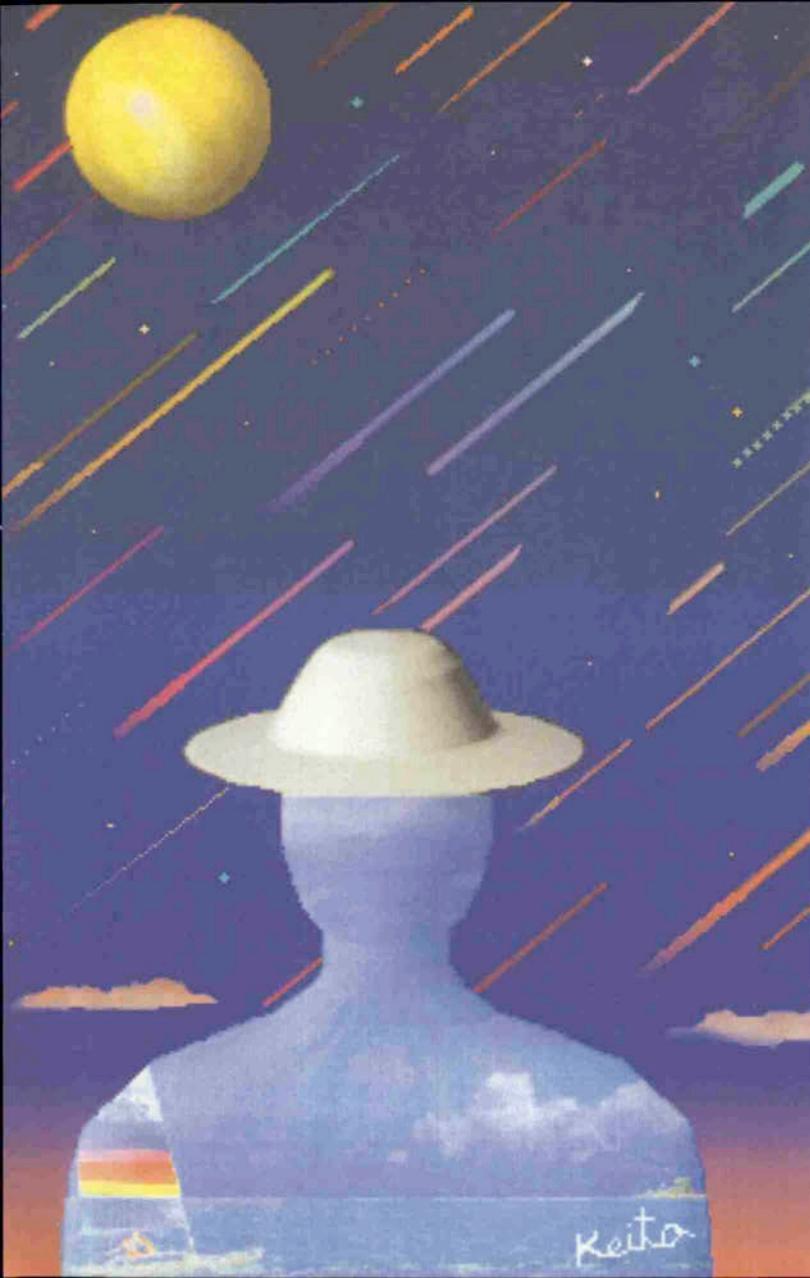
ある集い ■ K.F.M.

「7 MODELLISTE 花衣裳」
K.F.M会長 藤本ハルミ

コウベファッショニモディリストK.F.Mは、一九八〇年に結成され、その翌年神戸の未来をかけて開かれたポートピア'81にむけて「ポートピア'81へのブレリュード」をテーマにオリエンタルホテルに於て第一回のファッションショーを開きました。

それより十七年、その年その年のテーマを選び作品の発表を続けてまいりましたが、昨年十五周年記念のショーを目前にして一月十七日の大地震に出会い残念な中止ということになりました。会員はニットデザイナーの市野木悦子さん前川富紀子さん、三越のデザイナーの長井弘子さん、ブティック魔女の丹野最世子さん、クチユリエールの大西節子さんに私、藤本ハルミ、デザイナー六名にプランナーの月刊神戸つ子の小泉美喜子さんと妹尾光子先生、それに新しくブルーメール賞受賞者である、アートフラワーの佐藤悦枝さんが加わり文字通り花を添えてくれることとなりました。九月二十日(金)ポートピアホテルに於て「7 MODELLISTE 花衣裳」をテーマに発表いたします。どうぞ、ご期待下さいませ。

■連絡先 K.F.M事務局 神戸市中央区山本通2-12-17クチュールマーガレット内
藤本ハルミ 電話078-242-5690



これは神戸を愛する人々の雑誌です
あなたの暮らしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ
これは神戸っ子の心の手帖です

9月号目次 ●1996-424

表紙／「静物（ざくろ）」小磯良平（兵庫県立近代美術館蔵）
セカンドカバー／女のいる風景 石阪春生
目次 CG／高澤圭多

- 11 神戸っ子 '96／ミカエル・ラウドルップ 内橋和久 高砂京子
- 15 K O B E 创生スナップ
- 16 ある集い／K FM
- 25 ポエム・ド・コウベ／「三宮」佐土原夏江 絵=石阪春生
- 27 私の意見／「東部臨海部が遙しく異なる」長井成雄
- 28 連載エッセイ／静眼流旅日記⑥「テキーラの苦い味」
村松友視 絵=蓮本唯人
- 30 浅井信雄対談シリーズ
「復興へ、報道の使命をかける」ゲスト=佐藤公彦
- 36 地域文化論／「寅さん映画の次をどう思う？」嶋田勝次
- 40 ブライダル対談／「神戸はいま、震災結婚と震災ベビーブーム」
小山乃里子 桂あやめ
- 48 もうさんのひょうごウォーク／「福祉のまちづくり条例改正」
- 50 創り出そう新しい神戸／「ひょうごグリーンネットワーク」
- 52 トアロードまちづくり／「領事館」吳宏明
- 54 K O B E まちづくり／「どないすんねん新開地」
- 55 神戸電脳事情／「高橋孟のパソコン日記」
- 56 対談／「タカラヅカとリサイタル」麻美れい 広渡勲
- 70 亀井一成のズームインZOO／「足らなかった西瓜」
- 76 神戸を福祉の街に／「まつりと福祉」橋本明
- 78 有馬歳時記／女将訪問「奥の坊・先山万紀子さん」
- 80 シネマ試写室／「ナッティー・プロフェッサー」渡川長治
- 82 もだかる／「ウォーホル展」「スワロウテイル」「ケーブルガイ」etc.
- 84 神戸百店会だより
- 86 びっと。いん
- 88 ポケットジャーナル
- 92 るばえっせい／神戸の文化財はいま⑩「風が街を形づくった」
- 96 連載小説／「ガラスの扉」最終回 木村光理 絵=森澤達夫
- 102 神戸っ子俱楽部
- 114 海 船 港／「舟で防波堤に渡る」
- 116 北野マップ／「JAZZストリートを前にして」
- 118 福井恵子のほのぼのフラッグアート／「平成の遺唐使」

カメラ／米田定蔵・池田年夫・松原卓也・森田篤志・森田純三・米田英男

オーエムエムジーが語る

現代の結婚事情あれこれ

誠実の行方



係のよりどころとして必要になつて
くるのでしよう。

一緒に生きていく人を 信頼したいから誠実を重視する

ふだん相手が誠実かどうかを先に
考えて、人付き合いをする人はいな
いと思います。これは「誠実」とい
う言葉が無意識に信頼し合える関係
を示すものだからです。

●誠実ってなんだろう
適齢期の男性、女性に、結婚相手
に望む条件のアンケートを取ると、上
必ず「性格」がトップに挙げられま
す。これは男女問わず、絶対的な条
件です。

では、具体的には…と聞くと、上
位にくるのは「誠実な人」。実際オ
ーエムエムジーが会員に行つた意識
調査でも、結婚相手を選ぶ際の重視
ポイントに、男性では3位、女性で
は1位にこの「誠実」が挙がつてい
るのです。それでは、いったい「誠実」とは
なんでしょうか。

こうした流れのなかで今後「結婚」
という形式、制度もさまざまに変容
していくと考えられます。しかも社
会体裁よりも、気持ちの面での「お
互いの愛情の深さを計る目安」とい
う意味合いがさらに強まっていくよ
うな気がしてなりません。

結婚は「しなくてはいけない」か
ら「したい相手と出会ったときにつ
るものになつています。だからこ
そ「誠実」という物差しが、人間関

●誠実の裏側に見えるもの

「誠実」をキーワードに、現在の

結婚情報
OMMG

株式会社オーエムエムジー
神戸支社

〒650神戸市中央区北長狭通2-5-9
グランドプラザトーア6F
TEL. 078-391-2701 (代)
FAX. 078-391-2730

(資料提供 (株)オーエムエムジー)
時代によって価値観がどう変わつ
てもこのことは永遠に続いていく
と、オーエムエムジーでは考えてい
ます。

美しい花嫁になられた
生田神社前宮司福田様
のお孫さま
いついつまでも
お幸せに…

(株)美容室エリザベス住吉店▼



HAIR & FACE *Elizabeth*

本 店

神戸市中央区三宮町2丁目6-4

TEL. (078) 331-8894 (代)

住吉店

神戸市東灘区住吉本町2丁目10-42

TEL. (078) 851-6388 (代)

レンタルブティック

三宮店美容室エリザベス階上

TEL. (078) 331-3258

Elle



'96 KOBE 愛の季節

愛のフルーツ・フラワーライン
光と風と自然を感じて
エディング



KOBE Municipal Fruit & Flower Park 神戸市立フルーツ・フラワーパーク

〒651-15

神戸市北区大沢町上大沢字西谷2150

TEL. (078) 954-1000

【オーキッド フラン】

60名 ¥2,300,000

適用日: 全日

- 料理 ○飲物 ○挙式 ○控室 ○会場
- ケーキ ○葵花 ○花束 ○サンクスフラワー
- 司会 ○音響・照明 ○カラオケ ○ビデオ
- 寄せ書き ○芳名録 ○記念写真 ○印刷物
- 引出物 ○衣裳 ○美容・着付 ○かつら・かんざし
- 挙式証明書 ○チャーチオルガン ○聖歌隊
- 介添料 ○チューチュートレイン ○税・サ

【ヒーチ フラン】

40名 ¥1,000,000

適用日: 平日・仏滅の土日

- 料理 ○飲物 ○挙式 ○控室 ○会場
- ケーキ ○葵花 ○花束 ○サンクスフラワー
- 司会 ○音響・照明 ○カラオケ ○ビデオ
- 寄せ書き ○芳名録 ○記念写真 ○印刷物
- 引出物 ○衣裳 ○美容・着付 ○かつら・かんざし
- 挙式証明書 ○チャーチオルガン ○聖歌隊
- 介添料 ○チューチュートレイン ○税・サ

【パーティー フラン】

40名 ¥800,000

適用日: 平日・仏滅の土日

- 料理 ○飲物 ○挙式 ○控室 ○会場
- ケーキ ○葵花 ○花束 ○サンクスフラワー
- 司会 ○音響・照明 ○カラオケ ○ビデオ
- 寄せ書き ○芳名録 ○記念写真 ○印刷物
- 引出物 ○衣裳 ○美容・着付 ○かつら・かんざし
- 挙式証明書 ○チャーチオルガン ○聖歌隊
- 介添料 ○チューチュートレイン ○税・サ

【バーベキュー フラン】

40名 ¥600,000

適用日: 全日

- 料理 ○飲物 ○挙式 ○控室 ○会場
- ケーキ ○葵花 ○花束 ○サンクスフラワー
- 司会 ○音響・照明 ○カラオケ ○ビデオ
- 寄せ書き ○芳名録 ○記念写真 ○印刷物
- 引出物 ○衣裳 ○美容・着付 ○かつら・かんざし
- 挙式証明書 ○チャーチオルガン ○聖歌隊
- 介添料 ○チューチュートレイン ○税・サ

【フローリー & ハリー フラン】

小人数 ¥300,000

適用日: 平日

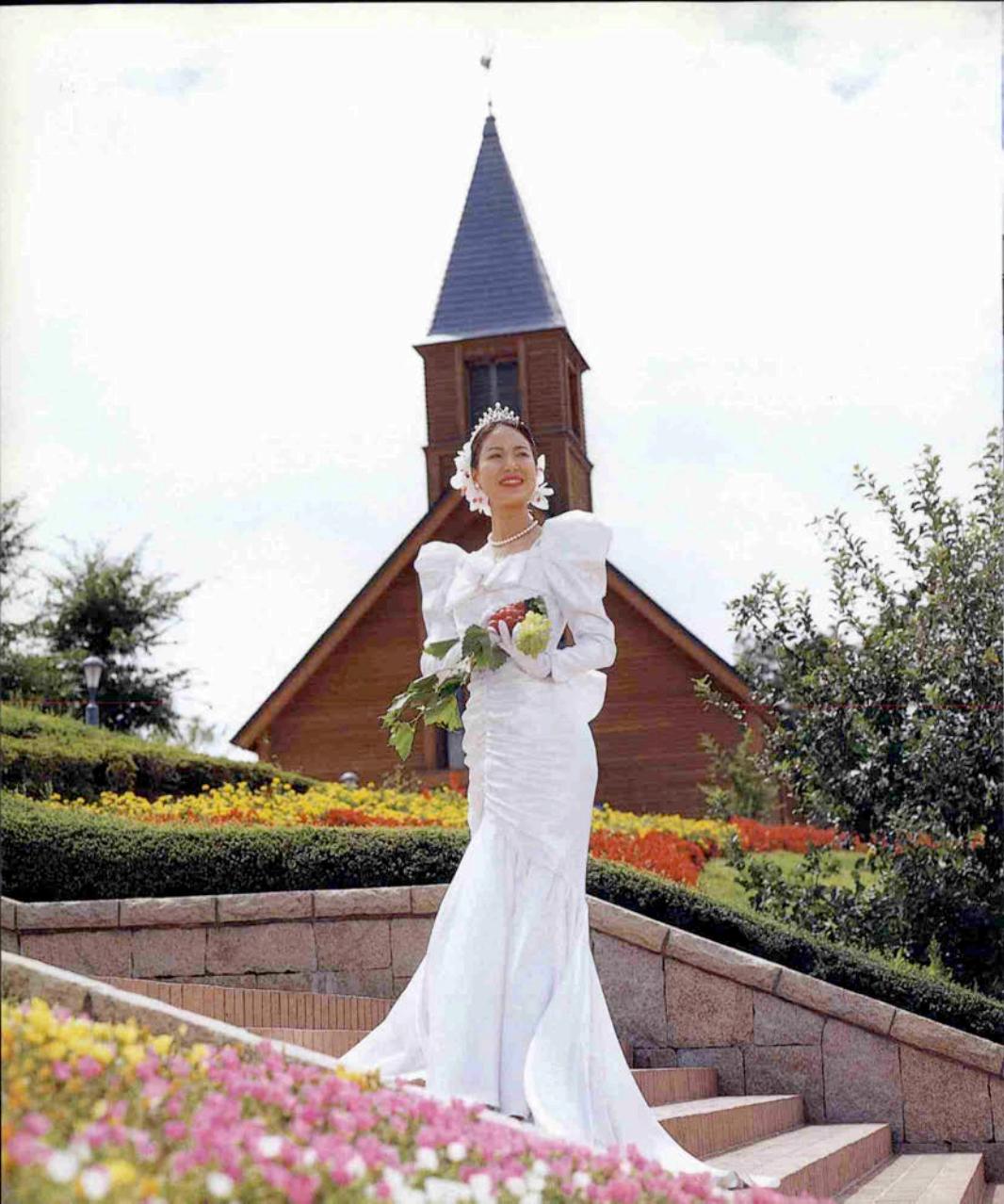
- 料理 ○飲物 ○挙式 ○控室 ○会場
- ケーキ ○葵花 ○花束 ○サンクスフラワー
- 司会 ○音響・照明 ○カラオケ ○ビデオ
- 寄せ書き ○芳名録 ○記念写真 ○印刷物
- 引出物 ○衣裳 ○美容・着付 ○かつら・かんざし
- 挙式証明書 ○チャーチオルガン ○聖歌隊
- 介添料 ○チューチュートレイン ○税・サ

※含まれるもの(○印)

衣裳/神戸京屋 ヘアメイク/みはら美容室 真珠/木下真珠

撮影場所/フルーツ・フラワーパーク内 ホテル研修館前・音楽堂前・エントランス広場前

モデル/藤本幸子(96ひょうご観光プリンセス)





KOBE EXCELLENT FASHION

欧風館

“今秋「リチャード・ジェームス」登場”

欧風館は21世紀を望む新しい一流テーラー像を掲げて1995年1月にオープンしました。

英国製最高級紳士服地「フィンテックス」を中心に使用、“クラシック＆トラディショナル”を主流とした正統派ロイヤル・ブリティッシュ・テイストの「ロイヤル・プレミアム・オーダー」など、経験40年という名人級の技術者による手縫い仕立ての超高級お挑え紳士服のコーナーをはじめ、イタリアン・テイストのトップファッショントースルスポイントに“エレガンス＆ファッショナブル”をテーマとして追求した「クリツイア」（ミラノ）、“クラシック＆エレガンス”をコンセプトとするヨーロピアン・テイストの「ジバンシイ」（パリ）両服地によるヌーベル・クチュール（中仮縫付きの新しいオーダーメイド）を提案しています。さらに'96秋・冬物より、“サビルローの新しい風”とうたわれている新進気鋭のデザイナー、色の魔術師リチャード・ジェームス（ロンドン）による“クラシック＆ファッショナブル”をベースにデザインされたオリジナルの紳士服が日本に初めて上陸し大きな反響を呼んでいます。

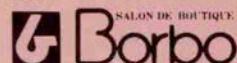


欧風館

〒100 東京都千代田区内幸町1-1-1
帝国ホテル本館アーケード内
☎ 03-3503-7973 店長 竹中陽一郎

KOBE EXCELLENT SHOP

★神戸唯一のボルボネーゼトータルブティック



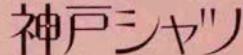
神戸市中央区元町通3丁目1-12 ☎391-0014

★伝わる真ごころ最高の風格

金柴田音吉洋服店

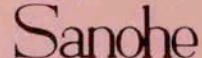
神戸市中央区元町通3丁目1-17 ☎334-2250

★よろず御懐衣縫上處



神戸市中央区三宮町3丁目1-6 ☎331-2168

★選りすぐった一点を…。



神戸市中央区元町通2丁目5-7 ☎331-4707



Liza

神戸市中央区三宮町2丁目6-1 ☎391-6806

★婦人帽子



神戸市中央区北長狭通2丁目6-13 ☎331-6711
(トアロード)
全国有名百貨店婦人帽子売場

※このシリーズは上記の専門店の提供によるものです。



R・ジェームスによるオリジナル紳士服

元町 弥生美容院

神戸市中央区元町通5丁目4番15号 078-341-1256
メリケンパークオリエンタルホテル店 078-322-0722
西神オリエンタルホテル店 078-992-3009
新神戸オリエンタルホテル店 078-291-1166
ホテルゴーフルリツ店 078-303-0312



'96 KOBE 愛の季節

神戸 つ子の

母子三代にわたる花嫁を

母子三代で創り続けています



衣裳／つるや衣裳店
撮影場所／
新神戸オリエンタルホテル
モデル／上原三葉

二三宮

佐土原夏江

絵／石阪 春生

ビルが消えて空が大きくなつた

こんなにも光がそそいで

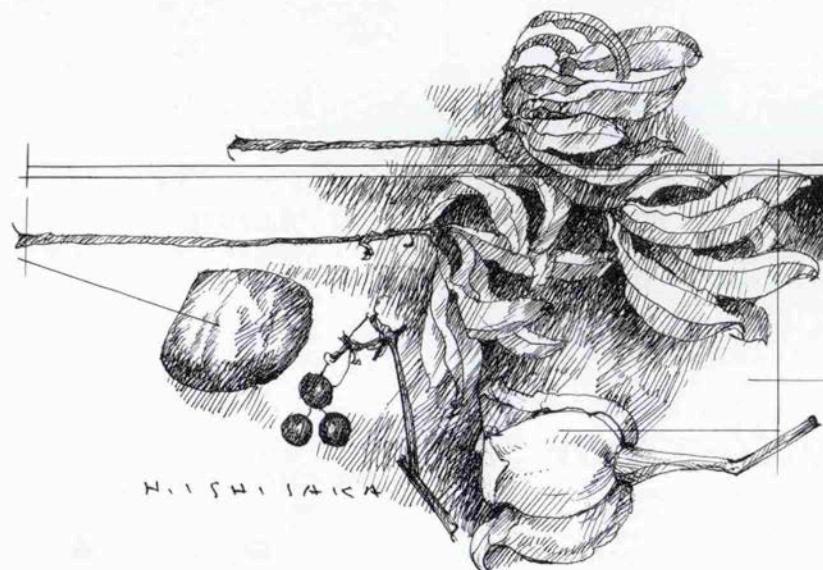
風の通う街だとは知らなかつた

神戸の海はすぐそこにあつたんだ

見えなかつたものが

ひよっこり

姿を現わした



RairCake

ペアケーキ

お喜びを伝えるお二人のシルエット
ペアスタイルの贈りもの



- Aセット クラウンケーキ&パウムクーヘン
- Bセット クラウンケーキ&クッキー
- Cセット クラウンケーキ&アーモンドケーキ
- Dセット パウムクーヘン&クッキー
- Eセット パウムクーヘン&アーモンドケーキ
- Fセット クッキー&アーモンドケーキ



株式会社

ユーハイム・コンフェクト

本社

〒651-21神戸市西区北別府2-1-2

TEL 078-974-9756 FAX 078-974-9758

プライダルギフト
事業部・大阪

〒558大阪市住吉区刈田町7丁目12-19
TEL 06-697-9435 FAX 06-697-4188

北欧の銘菓



佐本
産科

ママといっしょに



赤ちゃん：遠山由梨香ちゃん（平成8年3月22日生まれ）

パパ：芳樹さん ママ：久美さん

「わがままでもお転婆でもいいから、光り輝く女の子になってね」

★佐本産科・婦人科★
佐本 学

神戸市兵庫区中道通4-1-15
TEL:078-575-1024 (病室TEL:078-577-7034)

市バス上沢4停南スグ

●駐車場完備●

あの悪夢のような大震災から1年半が過ぎたが、今、思い起こしても「まさか、なんやねん」としか言いようのないほどの強烈な出来事であった。

□私の意見

一〇〇年の歳月を経て

震災を経て

今、東部臨海部が遅しく甦る

長井 成雄

株式会社神戸製鋼所 総合地域開発本部
開発計画部臨浜岩屋計画室 室長



一方、私の働いている職場は中央区、灘区の臨海部に点在しているが、神戸製鉄所が大打撃を受けるなど、その被災額が気の遠くなるような1000億円を越す額に上った。特に、我々神鋼マンにとって誇り高きシンボルであつた「高炉の灯」が消えたことは大変なショックであつたし、会社にとつても神戸に踏み止まるかどうかの決断をしなければならない未曾有のピンチであつたようだ。懸命の復旧によって、震災後70日目には感動的な「高炉への再火入れ」を果たしたが、震災後いち早く灯した高炉の火が21世紀を照らす道標となるように地元企業として精一杯頑張っていきたい。

また、震災復興のリーディングプロジェクトとして期待されている東部新都心計画は、当社の臨浜・岩屋工場跡地を中心に、居住機能、業務・研究機能、文化・交流機能を備えた「多機能複合型」の新都心の形成をめざしており、21世紀に向けた壮大な街づくり計画が動き始めている。この地区は当社発祥の地として90年の長きにわたり先輩達が汗し、涙し、守り続けてきた貴重な経営資源であるとともに、新生こうべの都市づくりにおいても貴重な都市資源であることから、現在、官民一体となって全力で取り組んでいる。

当社誕生以来、生産活動の用に供してきた土地が、今、一〇〇年の歳月を経て、震災を乗り越えて「発見と驚きと感動を与える新たな街」に甦ろうとしている。

テキーラの苦い味

村松 友視 へ作家

外国への旅でめずらしい酒を味わい、いたく感動することもあるのだが、めずらしすぎてショックを受けるような酒もある。私は、めずらし物好きに属するようなところがあり、日本ではめったにお目にかかるなどと言われると、これは触れておかねばならぬと思ってしまうタイプだ。

かつて、「音楽の旅はるか」という番組で、メキシコへと旅をしたことがあった。この番組の中の私の目的は、「泣き女」というメキシコの曲をさまざまなスタイルの演奏や歌で聴くことだ。ソン・ハロー・チョー、すなわち「ベラクルスの歌」を聞くということだつた。メキシコも南のオアハカあたりとベラクルスという港町が取材で訪れるべき場所だつた。

私は学生時代に「ベラクルス」という映画を見た。これは、ゲーリー・クーパーとパート・ランカスターが役の上でも演技の上でも火花を散らす痛快な映画だつたが、西部劇なのに舞台がベラクルスという港町だつた。マーロン・ブランド主演の「片目のジヤック」も港町が舞台だつたが、西部劇と港町の組合せはあまりなかつたはずだ。「ベラクルス」は、パート・ランカスターが自らプロデュースし主演した作品で、大物スターのゲーリー・クーパーを善玉

の主役として丁重に招き、自らは悪役に回りながら、けつとくは主役のクーパーを喰つてしまつたという因縁つきの映画だつた。それもあつて、私はベラクルスという港町には大いに興味があつた。

そのベラクルスには、かつてスクリーンで見たのと同じ風景があつた。クーパーとランカスターの虚々実々の駆け引きを頭にうかべながら、私は“ソン・ハロー・チョー”とベラクルス産の赤ワインを楽しんだものだつた。

さて問題はオアハカだつた。オアハカには名物のメスカルというテキーラがある。このメスカルはやや黄金色をおびているのだが、これには理由があつた。大体、テキーラの原料は龍舌蘭だ。その昔、太陽にじりじりと照らされ、ただれたようにならぬ龍舌蘭の葉を、犬がペロペロと舐めていたのを見た人が、やけに旨そうに舐めているなどと思ったのが、テキーラ誕生のきっかけだつた。犬がペロペロと舐めるのを見てやけに旨そうだと思った……その人が呑ん兵衛であることはあきらかで、テキーラは酒好きによつてつくられた酒であることもこのエピソードは証明している。

ま、テキーラはそうやつて誕生したのだが、南部でテキーラをつくつてているとき、そのテキーラの中

カット／灘本唯人
題字／筆者



へ龍舌蘭の葉を喰つていたグサーノと呼ばれる青虫みたいなものが落つこちた。グサーノは即死してしまつたのだろうが、そのエキスがテキーラの中に滲み出て、やや黄金色をおびてきた。ひと口飲んでみると、ちよつと変つた風味のあるテキーラに仕立あがつていた。それが、オアハカ名物メスカル誕生ものがたりだ。

つまり、メスカルはオアハカの名物なのだから、当然、私はそれを現地で飲みたいと思った。しかも、メスカルをつくつている家へ行つて飲ませてもらうというのだから、これは得がたい体験だとよろこびいさんだ。

グラスを持っていると、その家のオヤジが何かをつまんで私に向けてさし出した。それはグサーノが干からびたやつだった。それを少し噛んではメスカルを口へ運ぶと、こたえられないアンサンブルを生むのだとオヤジは言つた。

私は、右手にグラスを持ち左手にグサーノをつまんでカメラへ目を向けた。そして、カメラのうしろにいるプロデューサーに向つて、

「グサーノって、日本語に訳すと何になるのかなあ」

と言つた。すると、プロデューサーは申し訳なさそうな顔をつくつて答えた。

「すみません、ウジ虫という意味だそうです……」

私は、両手を宙にかかげ、カメラを見すえたまま硬直してしまつたのでありました。

（むらまつ・ともみ）一九四〇年東京生まれ。慶應義塾大学文学部卒。六三年中央公論社に入社。『小説中央公論』『婦人公論』『海』編集部員を経て、八一年退社。八一年『時代屋の女房』で直木賞受賞。主な著書は『私、プロレスの味方です』『百合子さんは何色』『アブサン物語』『流水まで』など。



■ 浅井信雄対談シリーズ（25）



復興へ、報道の使命をかける

（ゲスト）

佐藤 公彦
浅井 信雄

（神戸新聞社編集局長
神戸市外國語大学教授）

浅井 名刺に新社屋の写真がありますが、新しい建物に移つて張り切つておられるでしょう。

佐藤 三宮の新聞会館が大震災で壊れ、転々と仮住まいを続けてきたので、ほつとしています。

浅井 住み心地、働き心地はどうですか。

佐藤 眺めがいいですね。山も港もまちも広く見えます。

浅井 ハーバーランドの新社屋に編集局や広告局を置き、印刷、発送の業務は西区の工場で行うようになつていますが、拠点を二つに分けた理由は何ですか。

浅井 名刺に新社屋の写真がありますが、新しい建物に移つて張り切つておられるでしょう。

佐藤 分割は八年前からやつていています。新聞は、以前は列車で販売店に運んでいました。駅のそばに輪転機を置く必要があつたのです。いまは自動車輸送なので、印刷する場所は必ずしも市街地でなくともかまいせん。むしろ郊外の道路交通の便がいいところが経済的です。鉛活字を使つていたころは、編集局と印刷局の間を紙型一タで紙面を作つていますから、離れていても問題はありません。

（あさい・のぶお）1935年新潟県生まれ。東京外大卒。読売新聞ワシントン支局長など海外勤務十年以上。米国ジョージタウン大客員研究員、三菱総合研究所客員研究員などを経て87年から現職。著書「アメリカ50州を読む地図」「民族世界地図」ほか。横浜市在住。

浅井 あの一日十七日の夕刊も休まず発行したことは新聞界の語り草になっていますが、京都新聞社と結んでいた災害時の協力協定が大きく役立ちはじめました。あの協定を

結ぼうという発想はどこから生まれたのですか。

浅井 の可能性がある」という記事を掲載していたそうです。ただ「二十年後に来る」とは書いてなかった(笑)。その記事は覚えていましたか。

佐藤 新聞製作にコンピュータを導入したのが京都新聞社とほぼ同じ時期で、その更新時期を同じように迎えていました。京都新聞社の方から「コンピュータにはトラブルが付き物だから、いざというとき、互いに助け合おう」という提案があつたのです。それから一年半かけて協定にたどりついたのです。

浅井 地震を想定していたのではなかつた…。

佐藤 コンピュータのダウンに備え、というのではなく、新聞社らしくない、地震、台風、津波に備えてと言つた方が緊迫感がある、と、そんなことで災害対策協定という名前になつたのです。

★地方版削減はつらかつた

浅井 神戸新聞は二十年ほど前に「阪神間に直下型地震

重な警告をしていたのだよ」と教えられました。三年前

にも社会面トップに書いたり、企画もので関西は直下型の地震の恐れがあると連載したりしていたのですが、わたしたち自身が地震に備えることはありませんでした。

昨年の地震直前にも朝刊のコラム「正平調」で「地震は忘れたころに来る。ことしがナマズ年にならないように気をつけよう」と書いてもいたのですが…。

浅井 それを読んだ人が、今年は十分気を付けようとか備えたという話はありませんでしたか。

佐藤 残念ながら、だれかが防災対策をしたという話は聞けません。わたしも何もしなかつたのです。

浅井 昨年九月に毎日放送の斎藤守慶社長と対談したとき、毎日放送は一年前から地震対策を立てていて、これが役立つたと話しておられました。そういう準備をしていた企業もあるのです。神戸で事前に対策を立てていた



(さとう・きみひこ) 1941年北海道生まれ。64年中央大学法学部卒。神戸新聞社入社。デイリースポーツ東京本社整理部に配属された後、神戸新聞社整理部、姫路支社佐用支局などを経て91年に整理部長、93年編集局次長、96年3月から編集局長。神戸市灘区在住。



浅井信雄さん

ところはありましたか。

佐藤 かなり綿密に取材をして探したのですが、見つかっていませんでした。逆に、東京から神戸に転勤して来た人たちには「地震のおそれのない神戸に来てほっとした」という話ばかり…。

浅井 佐藤さんは地震の当時は編集局次長で、今年三月から編集局長になられました。震災報道についてさまざまの議論がありますが、よかつた点「こうしておけばよかつたのに」という点はどんなことがあるのでしょうか。

佐藤 できなかつたことでいうと、直後の新聞は、京都新聞で夕刊一〇ページ、朝刊二十四ページを作ったのですが、このうち神戸新聞の記者が整理をして作ったのはわずか四ページ。家庭面、運動面など残りは京都新聞の紙面を流用する形で出しました。地方紙として特色のある地方版が早版から最終版まで全体で十九面あるのですが、これが全く作れなかつたのがとても残念でした。ことに、但馬や丹波、播磨など、被災はしなかつたけれど懸命に支援してくれた人たちの動きをそれぞれの地方に伝えられなかつたことは心残りです。

浅井 震災直後、暴動もなく略奪もなかつたということになつていますが、うわさでは泥棒などいろいろあつたと聞きますが、うわさは泥棒などいろいろあつたとした。意図的に掲載しない方針だつたのですか。

佐藤 そうした事件を書くなという方針はありませんで

した。確かにうわさはたくさんあつて、取材したけれど事実が出て来こない。警察への被害届も出でていないし、現場に行つても確認できません。うわさだけが広がつてゐるケースが多かつたようです。

浅井 あの混乱の時期ですから警察の機能も低下していだし、確認も難しい状況だつたと思います。女性に対する暴行事件もたくさんあつたといううわさも流れていますが、事実はどうだつたのでしょうか。

佐藤 そのことについてはいろんなところから新聞社に問い合わせがあり、わたしたちも広い方面で取材しましたが、確認はできませんでした。おぼろげながら浮かんできたのは、ある女性問題電話相談に被害を訴える三十数件の電話があつたという話をつかんだのですが、ほかの電話相談にはそうした訴えはほとんど来ていません。公的機関にもそうした訴えは少ない。ですから、三十数件の電話相談があつたという話を信じがたい部分があると判断してストレートな記事にはしませんでした。

★二年間は震災報道に重点を置く

浅井 地震に対する認識には県内でも差があるようですが、神戸市内でも六甲の山を越えると別世界、という状況でしたから、広い兵庫県内では震災についての考え方違ひが出て来ているでしょう。新聞社にはどんな意見が来てますか。

佐藤 最初の三ヵ月くらいは新聞社に寄せられる声もまとまつていたのですが、四ヵ月目くらいからは、被害がなかつた地方からは「震災ばかり書いているが、いいかげんにしてほしい」という声が出てきました。

浅井 そうした声にはどう対応をされたのですか。

佐藤 編集局としては、少なくとも二年間はあえて震災報道を重点的に続けようという方針を立てています。これは、雲仙・島原の噴火災害、奥尻の津波災害の報道に

ついてもいえるのですが、わたしたちはこれまで一過性の報道しかしてこなかつたという反省があります。今度の震災での最大の教訓は、災害を他人事としてとらえてはいけない、すくなくとも兵庫県民全体のこととして考えようという姿勢を学んだことです。

浅井 兵庫県だけではなく全国でも考えてほしいことで、現実には、温度差といわれるよう震災への対応にずいぶん差がでてきてています。

佐藤 神戸市内でも温度差ははつきりあるのですが、神戸新聞が震災を片隅に追いやらない姿勢を貫くことで、温度差をなくすよう身をもつて示していきたいとっています。

浅井 今でも覚えていますが、震災から半年たつたころ、六甲の北側のレストランで食事をしていると、隣の席で「きょう三宮に行つてきたが神戸はまだ大変だよ」と話しているのですね。自分も神戸にいるのに。同じ神戸市民でもこれ程の差があるのですから、中央と神戸とでは認識に大きな差があるのは止む得ないと言えるのかも知れませんが、どうも日本人は人の不幸を他人事としか考えない風潮が強くあります。0-157の問題でも、岡山で発生が報じられても、例えば堺市では何の対応も取らなかつた。

佐藤 実はそれは神戸新聞でも同じであつて、これまでの各地の災害について一過性の報道はしても、それを教

訓に何かしたかというと何もない。半年後、一年後どうなついたかという報道をきつちりやつていれば、阪神大震災に対してもう少し何とかできたのではないかという反省があります。

★地震保険の実現に向けて

浅井 いまの復興の状況は、完全復興を一〇とするどくのくらいになつてているのでしょうか。

佐藤 道路、港などインフラは七割から八割は復興しているが、生活の面では五割もいつていないでしよう。ひとつ気になるのは、公費で資産を援助しないと言いながら、個人資産の処理を公費で援助したがれき処理が外見的にマイナスになつてゐると思います。壊れた家をしばらく解体処理してしまつたものだから、全国から来た新聞関係者たちも「すつかりきれいになりましたね」と感想を言う。復興しているのだと錯覚してしまうのです。仮設住宅も、人工島や六甲山の北側に建てたものだから、ちよこつと神戸に来た人の目には入らない。「神戸は早く立ち直つた」と思つてしまふ。

浅井 外見ですぐ判断してしまいますからね。電気が早く回復したのはいいことなのだけど、三宮あたりで明かりがこうこうと灯つてゐるのを見ると、すつかり元に戻つたのだなと思つてしまふ。明かりは人を感わすこともあります。

佐藤 生活の面では、仮設住宅に行つてゐる人だけではなく、親戚や知り合いを頼つて移つて行つた人たちが相当数になつてゐる。家を再建しても二重ローンに悩んでいる人が多い。会社がつぶれたり、震災を機会にリストラの対象になつて失業した人もたくさんいる。暮らしの復興はまだまだです。

浅井 政府は個人補償はしないとしているのですが、長期的に見て何らかの救済制度が必要になつてくると思

ます。どんな制度が望ましいでしようか。

佐藤 県や弁護士会などが提案している地震保険、そういうものが恒久的な制度として必要になつてくると思います。

神戸でこれだけの被災者が出了のですから、これが東京で起つたりすればはるかに悲惨なことになるでしょう。避難民が出るというより、大量の難民が出るこになります。ですから強制的な国民保険であるような基盤を作ることが必要だらうと思います。

浅井 日本人にとって生命と家とは切り離せないものですから、家をもつてゐる人は必ず加入する共済制度といふか、強制的な保険は必要かも知れません。自動車をもつて必ず保険に入らないといけない制度は既にあります。が、地震に備えるそくした新しい保険制度の実現は可能でしようか。

佐藤 難しい問題がいくつもありますが、少し形を変えてでも実現してもらいたい制度です。阪神大震災の被災者にさかのぼつて適用されることを望ましいのですが、それがどうしてもネックになるというのなら、次の震災から適用するということになつても、新しいシステムを生み出すためには止む得ないのかも知れません。

浅井 一軒だけぶれた災害にも適用するのか、どうではなく何軒以上壊れた地震に適用するのかという議論になると難しいところがありますね。

佐藤 雲仙や奥尻の災害では、一世帯当たり一千円から千二百万円もの義援金が贈られました。阪神大震災の場合は最高でも四〇万円です。世界中から巨額のお金が寄せられたのですが、あまりにも災害の規模が大きかつたのです。ですから、民間の善意を当てにするだけではなく、政府が全壊、全焼世帯には五百円から八百万円くらいはを補償するべきだとは思うのですが、それができないのであれば地震保険のような新しいシステムを作るべきです。それもできないというのでは、大震災から何を学んだのか、と怒りたくなります。

浅井 政府の阪神・淡路復興委員会の下河辺淳委員長は、「一月号のこの対談で『地元の新聞、神戸新聞の役割に大いに期待している』と話されていました。

佐藤 一生懸命やつてゐるつもりですが、困難な点もあります。国がもっと補助するべきだとキャンペーンをやります。国がもっと補助するべきだとキャンペーンをやると、読者は、その補助があたかも実現するものだと思ふんでしまう。実現しないと分かると、神戸新聞が責任を取つてくれ、と言つてくることもあります。神戸新聞には情報科学研究所というのがあって、そこがいろんな調査や提言をまとめたり、シンポジウムを行つて多角的な研究や議論を展開しています。大学、医師会、弁護士会、ボランティア団体などいろんな団体をつなぎ合わせる役目を果たそうとしています。

浅井 キャンペーンを展開すると、あたかもそれは実現するものだと読者が思ふんでしょう。この悩みはよく分かります。オリエンピックでも、新聞は金メダルは一〇個以上取れると書き立てている。読者もそれが当然だと思ふんで、取れなかつたら新聞に腹を立てる。新聞が政府に対して地元のさまざまな要望をぶつけ、政府がそれは無理だとするとみんながつかりして、新聞が悪いと言ふ出でかもしれない。そうではなくて、地元と中央のギャップを新聞が冷静に分析する必要もあるのではないかですか。

佐藤 ご指摘のとおりです。市民にとって行政というものは市であり県なのです。市民が交渉するのは、市や県の職員と交渉するのですが、市や県は権限をほとんど持っていない。国の承認がないと何もできないのです。地方分権の必要がよく言われますが、いま現実は国の出先でしかない構造なのです。被災者にはそこがなかなか見えない。わたしたちはその構造をこれまできつちり書い

て来たつもりですが、これからも行政の構造が見える報道をし、住民の側に立つ行政になるように求めていきたいと思っています。

浅井 佐藤さんは見晴らしのいい新社屋に移ったと喜んでおられましたが、神戸からの視点だけでなく、日本全体を視野に入れ、神戸からの願いを大きなまないに乗せて点検しながら報道されることを望みたいですね。

佐藤 それはすごく大事なことです。特にそれは地方紙の役割だと思っています。神戸発神戸着、兵庫発兵庫着でなければなりません。被災者の要求はどんなことなのかを確認し、要求を実現させるためには行政のシステムはどのようにになっているのかを知らなければなりません。中央の省庁に要求をぶつけるだけではなく、読者、県民に、正しい要求はどんなものを議論してもらい、それを実現する手立てはどうであるかを知つてもらいたいと思います。

浅井 それに加えて、ほかの県がどう見ているかも大切です。「何で神戸ばかりなんだ」と言う声が上がっていますね。国のお金は全国民が払った税金です。

佐藤 それもよく分かるのですが、被災者はまだ感情的なところがあります。神戸のことを知らないで何を言うのだ、と反発します。

浅井 感情的なところがまだ強くなるのは仕方がないのではしようが、報道の姿勢としては広く見てほしいですね。

佐藤 難しいところです。数ヵ月間はみんなの気持ちが一致しまとまつっていましたが、

その後だんだん要求が分極化してきます。仮設住宅にいる人、テント暮らしを続けている人、あるいはまちづくりを巡つても推進派、反対派

に分かれたりして、時間が経つにつれて立場が違つてきて要求も違つてくる。

浅井 新聞としては、いろんな声を載せてみんなで議論しましよう、というのが一般的なのですが、世論を導くということも考えられていいのではないか。

佐藤 わたしは、この二年間はオビニオンリーダーになつてはいけないと言っています。多様な情報を、あれも

これも出していって、その議論の中で一定の意見が形成されていったらそこで判断しようというのです。まずは情報を公開する、それが第一だと思っています。

浅井 大震災の取材を通じて記者としての考え方方が変わつたということもあるのではないか。ことに若い記者にとつては二度とは得られない体験だったと思います。

佐藤 震災で得た新聞社の最大の財産はそれです。これまで記者クラブ制度がしつかりあつて、情報がコントロールされていた。それがなくなつて、全部足で歩いて取材しなければならなくなつた。現場が無数にある。避難所だけでも一千カ所以上ある。目で見てきたこと、聞いたことを数人がつなぎあわせて記事にする。取材の原点に戻つたのです。いま、役所の情報提供も元に戻ります。が、記者は鵜呑みにするのではなく現場に行く癖がついています。神戸新聞の記者は地方に出ていた記者も合わせると二百人くらいいます。その六割は平成になつて入社した記者なのですが、この状況の中でもたたきあげられた経験を基に、数年後にはすばらしい記者集団が育つてくると期待しています。

浅井 わたしの記者経験から言つても、講習会に参加しても役に立つことは見えられない。やはり実戦のなかから何かをつかんでいくのです。それが生かされて、社屋だけではなく内容もすばらしい新聞を作られることを願っています。

（七月二十三日、神戸市教育会館で）